取扱説明書

小型船舶用救命胴衣

《膨脹式》

マリンベスト KK-3

分類の種類 TYPE A

国土交通省型式認証番号第4487号

作成2003.02.07

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくご使用下さい。
尚、本品は繰り返し使用できますので、この説明書を、大切に保管して下さい。
本製品の使用方法および再使用手順は、3ページから7ページに記載してあります。

製造販売
(国土交通省認定製造事業場)
興亜化工株式会社

⚠ 警　告

■ 取扱上の注意事項

1. ポーチの中に物を入れないで下さい。(たばこや手袋等)
(救命胴衣の正常な膨脹を妨げたり、安全な着用を妨げる原因となります。)

2. 落したり、ぶつけたりしないで下さい。
(強い衝撃が加わるとカット装置本体が破損して使用できなくなります。誤って落したり、ぶつけたりした場合は、必ずカット装置を点検して下さい。)
(7ページの保守・点検の項を参照)

3. 強い衝撃を与えたり、鋭利な刃物や突起物に触れさせないで下さい。
(強い衝撃を与えたり、鋭利な刃物や突起物に触れた場合などは、補助送気管より口で空気を吹き込み、救命胴衣を膨脹させて12時間以上放置した後、漏れがないか調べて下さい。その後、補助送気管より完全に中の空気を抜き、キャップをして下さい。)

4. ガスボンベが緩みなく装着されているか確認して下さい。本製品は、小型ガスボンベに充填された炭酸ガス(CO_2)によって膨脹するため、救命胴衣を膨脹させない原因となります。

5. ガスボンベは本製品以外のものを使用しないで下さい。正常に膨脹できなくなる原因となります。

⚠ 警　告

■ 取扱上の注意事項

6. 一度膨らませた救命胴衣は、補助送気管より完全に中のガスを抜き、キャップをして下さい。
(ガスが残ったまま再度使用しますと、膨脹しすぎとなり救命胴衣を破損させる原因となります。)

※ガス抜きの際、ガス(炭酸ガス)を吸い込まないようご注意下さい。

7. 絶対に空ボンベ(使用済みボンベ)付の胴衣を着用して使用しないで下さい。(膨脹しません)
膨脹装置は一度作動させるとガスボンベのガスがなくなり再使用できません。

⚠ 注　意

■ 保管上の注意事項

1. 使用しない場合、炎天下、車のトランクの中など、高温および湿気の高い環境下では保管しないでください。

ガスボンベを破裂させたり、カット装置を誤作動させる原因となります。

2. 幼児の手の届かないところに保管して下さい。怪我などの原因となります。

3. カット装置は精密な構造ですから、分解しないで下さい。カット装置を誤作動させる原因となります。

■ 製品仕様

救命胴衣	・1気室・首掛け式 ・ﾅｲﾛﾝ,ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝｺｰﾃｨﾝｸﾞ引布 ・ｵﾚﾝｼﾞ色 ・再帰反射材貼付,笛・補助送気管付 ・縦約54cm,幅約36cm(膨脹時) ・浮力:約10kg
手動膨脹装置 (カット装置)	・手動膨脹用ｶｯﾄ装置:1個 ・ｶﾞｽﾎﾞﾝﾍﾞ(液化炭素ｶﾞｽ 17g):1個
ポーチ (寸法・重量)	250mm×110mm×50mm・約125g
全重量	約480g(胴衣部分355g)

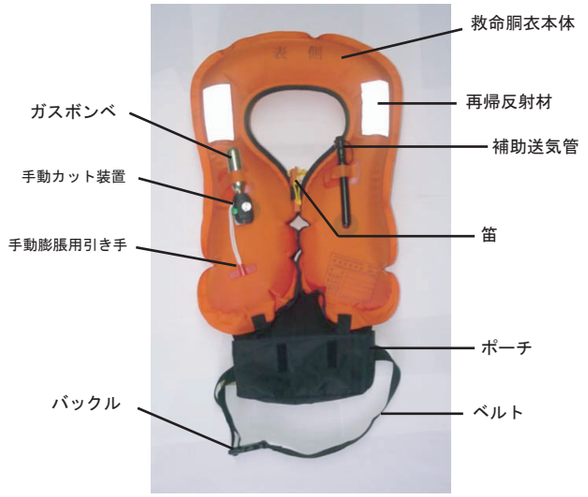
■ 概　要

本製品は、小型船舶安全規則第53条(小型船舶用救命胴衣)並びに小型漁船安全規則第25条(救命設備の要件)の第2項に適合するものです。

本製品は小型船舶ならびに小型漁船に乗船時に、常時着用しやすく、軽量でコンパクトにして邪魔にならず作業性を良くした、安全な小型船舶用の救命胴衣です。

ポーチの蓋の内側からのぞいている赤色の引き手を強く引くと、救命胴衣が膨脹する仕組みになっています。

■ 各部の名称



■ ポーチ

(表側)

(裏側)

ポーチ裏面に海技免許書等を収納できるポケットがついています。

■ 使用方法

1. KK-3の装着
ポーチ(小型船舶用救命胴衣を内臓)を腰部前面に装着します。(図-1)
・ポーチに付いているベルトを腰部に廻し、ベルトの左右のバックル(留め具)を差し込み、ベルトの長さを調整してしっかりと装着して下さい。

装着が十分でないとポーチが水中で外れてしまう原因になります。

■ 図-1

2. 救命胴衣の着用、膨脹

●緊急時の救命胴衣として使用
*救命胴衣をポーチから取出し首にかけて、カット装置についている手動膨脹用引き紐の先の“引き手”を強く横に引張ると、膨脹装置が作動して救命胴衣が膨脹します。

*救命胴衣本体の上部に「表側」・「体側」の標示がしてあります。「体側」(カット装置・ボンベや補助送気管のついていない側)を身体側にして装着して下さい。

不慮の転落落水時等に救命胴衣として使用

1. 慌てずに、ポーチの蓋の内側からのぞいている**赤色の引き手**を握って強く横に引張ると、膨脹装置が作動して救命胴衣が瞬時に膨脹し、ポーチから飛び出て、水面上の前面(顔面)にほぼ垂直に立った状態で展張し浮き出ます。

＊ポーチを腰部側面等に付けていた場合は、水中でポーチを掴んで、前面に廻して下さい。

2. 水面上に前面(顔面)に膨脹して出た救命胴衣の両端をつかんで、救命胴衣の首部内側「体側」に頭を通し(かぶり)首にかけて下さい。
(救命胴衣首部内側に頭を通す)-(図-2)

図-2

■ 適正な浮遊姿勢

救命胴衣、ベルト及びベルト連結紐との組合せで、適正な浮遊姿勢を保ちます。(図-3)

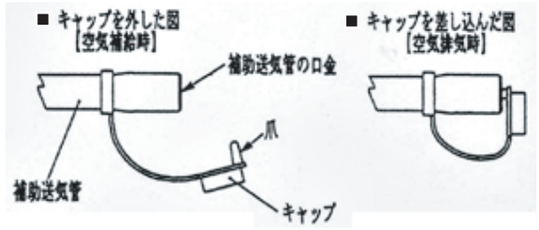
図-3

■ 補助送気管

この装置は、気室(救命胴衣の内部)に空気を補給する時又は気室の空気を排気する時に使用する装置です。

a. 空気補給時：　キャップを外して、補助送気管の口金(樹脂)から補給します。
補給後はキャップをして下さい。

b. 空気排気時：　キャップを外して、キャップの先の爪を補助送気管の口金(樹脂)に差込んで押しますと排気します。



裏面へ続く

■ 使用後の再生

使用後の小型船舶用救命胴衣ＫＫ－3は点検整備し、本取扱説明に記載された再生手順に従って再生することにより、新品と同等の性能が発揮されます。

1. 救命胴衣を膨脹使用後は、カット装置に壊れて残っているシールピンを取り除いて下さい。

2. 漏洩個所の無い事を確認して下さい。
（方法：水没又は石鹸水の塗布等で、漏れがあれば、泡が出ます）

3. 真水で良く洗浄してください。その後、使用済みガスボンベ（CO_2:17g）を左に回して取り外し、救命胴衣及びカット装置を日陰で良く乾かして下さい。

4. 救命胴衣の気室内のガスを充分に抜いて下さい。

5. カット装置の手動用作動レバーを上に引き上げて、元の位置に戻して下さい。

6. 新しいシールピンを取り付けて下さい。

＜シールピンの取り付け方法＞

・シールピン結合板（ピン無し）をカット装置の救命胴衣側に形状をあわせて保持し、その反対側からシールピンを赤色部の形状、穴にあわせてしっかりと押し込んで下さい。

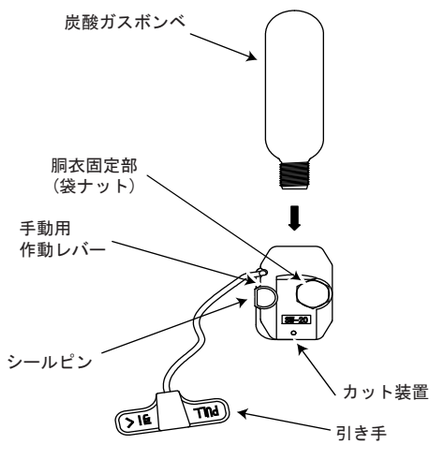
7. 新しいガスボンベ（CO_2：１７g）を取り付けて下さい。

＜ガスボンベの取り付け方法＞

・新しいガスボンベを右に回して、しっかりと締めて下さい。

8. 救命胴衣本体を畳み、ポーチに収納しセットします。
（6ページの救命衣のポーチ収納方法の項を参照）

■ 手動膨脹装置の詳細



■ 救命胴衣のポーチ収納方法

1. 救命胴衣とベルトを連結する紐にねじれや、からみがない状態とし、ポーチと救命胴衣を広げます。（図1）

2. カット装置側を補助送気管側の下側に折込み（図1-A）、重なりがずれないようにします。（図2）

3. 補助送気管の筒口上部（図2-B）を折り点とし、救命胴衣の上部を内側に折ります。（図3）

4. 補助送気管の取付端部（図3-C）を折り点とし、その上部を内側に折ります。（図4）

5. 折りたたんだ状態のまま、救命衣を左側に90度回転させながら、一番下にたたまれている救命胴衣を反対側に半分折り返します。（図5）

6. カット装置よりはみ出ている救命胴衣を両側ともカット装置の下側に折り込みます。（図5-D,E）

7. 救命胴衣がポーチからはみ出さないように、その状態のままポーチに収納します。（図6,図7）

・その際に手動膨脹用引き手をポーチの外側に出しておきます。

図1

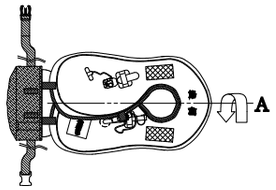


図2

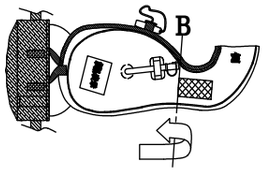


図3

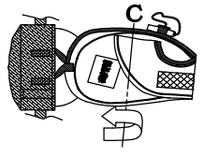


図4

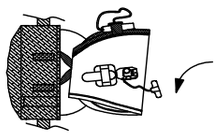


図5

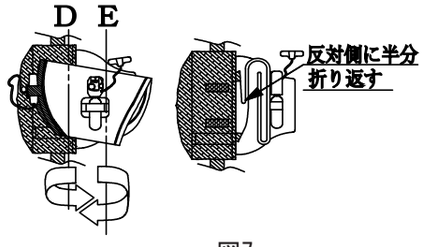


図6

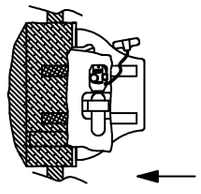
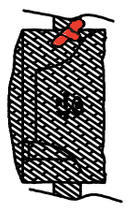


図7



■ 保守・点検

救命胴衣が何時も完全な作動をすることを確保するために、６ケ月毎に次項の保守点検を実施して下さい。

1. 救命胴衣の本体布の点検
裂け、切れ傷、こすれ、漏れ等の損傷や変質等の異常が無いことを、点検して下さい。
漏れ等異常のある場合は、新しいものと交換して下さい。

2. 手動カット装置の保守・点検
亀裂、破損などの異状の有無を点検して下さい。
異状がある場合は、認定整備事業場に修理を依頼して下さい。

3. ガスボンベの点検
ボンベを取り外して秤量し、ボンベ本体に刻印してある重量と対比して下さい。
刻印重量より減量している場合及び錆が発生した時は、新しい純正部品と交換して下さい。

4. 補助送気装置の点検
補助送気管に亀裂、裂け、変質等が無いか又キャップの有無を点検して下さい。
亀裂等異常のある場合は、認定整備事業場に修理を依頼して下さい。

5. 締付けベルトとベルト連結紐の点検
ベルトと連結紐の損傷、切れ等とミシン糸切れ、ホツレ及びバックルの損傷の有無を点検して下さい。
損傷等のある場合は、修理を確実に実施して下さい。

6. ポーチの点検
ポーチに裂け、切れ傷やミシン糸切れ、ホツレ等の損傷の有無を点検して下さい。
損傷のある場合は、修理を確実に実施して下さい。

7. 笛の点検
笛の有無及び音が出るかを点検して下さい。
笛が無い場合又は音の出ない場合は、新しい純正部品を付けて下さい。

8. 再帰反射材の点検
再帰反射材の有無及び剥がれ、汚れ、傷等の有無を点検して下さい。再帰反射材が取れた場合又は無い場合は、純正部を所定の位置に貼付けて下さい。
又剥がれ、汚れ等がある場合は、補修して下さい。

8. 手動レバーと引き手の点検
手動レバーと引き手が堅固に結合されているか点検して下さい。

整備記録・メモ

製 造 販 売
（国土交通省認定製造事業場）
興亜化工株式会社
ホームページ；http://www.koa-kako.co.jp
E-Mailアドレス；sales@koa-kako.co.jp
〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-13-9
TEL(03)5835-2924　FAX(03)5835-1041

(2003.02)